

## 2) 稚魚網採集標本による2002年生まれのアユのふ化日組成推定

田中秀具・臼杵崇広・片岡佳孝・井出充彦・大山明彦・大江孝二

**【目的】**湖産アユのふ化時期を把握し、従来の産卵調査・ヒウオ生息状況調査による資源の量的把握に詳細な検討材料を提供し、よりきめの細かい漁況予測を実現する。

**【方法】**2002年9月30日～12月16日の間に9回の稚魚ネット（通称、ヒウオ曳網）による仔稚アユ採集調査を行い、湖内各地で採集した仔稚アユ標本478尾について耳石日周輪を読みとり、各個体のふ化日を推定し、2002年産アユのふ化日組成を求めて、過去3年のふ化日組成と比較し、その特徴を検討した。

### **【結果および考察】**

- ① 1999年～2002年産アユのふ化日組成を図1.に示す。標本から推定された2002年のアユのふ化期間は9月13日～11月23日であった。これは過去3年と比較すると、ふ化の始まる時期はやや遅く、終了時期はほぼ同じであった。
- ② ふ化日組成のピークは10月中旬～下旬にみられ、過去3年と比較するとピークの時期が2週間以上遅い傾向にあった。これは10月初旬までの産卵河川の濁水の影響（図1）であり、この傾向は産卵調査結果（本事業報告、「漁況予報調査研究」）と一致する
- ③ 2002年の人工河川からの流下仔アユ数の経日変化を図2.に示す。前述のように天然の産卵河川が濁水していた時期と図1.、図2.の比較から、9月～10月上旬のふ化アユは殆どが人工河川からの流下によるものと思われた。
- ④ 2002年のふ化日組成の最も大きな特徴は、9月生まれのアユの頻度が極めて低いことで（図1.）、1999年生まれが36.21%、2000年生まれが43.41%、2001年生まれが56.77%に対して、2002年生まれが11.51%であった。例年、3月のヤナ漁獲アユは、9月生まれが主体となる（1999年～2001年の3月のヤナ漁獲アユのデータによる）ことから考えると、9月生まれが少ない2003年は、3月を中心とする早期のヤナ漁場への来遊（河川への遡上）は期待できないものと思われる。

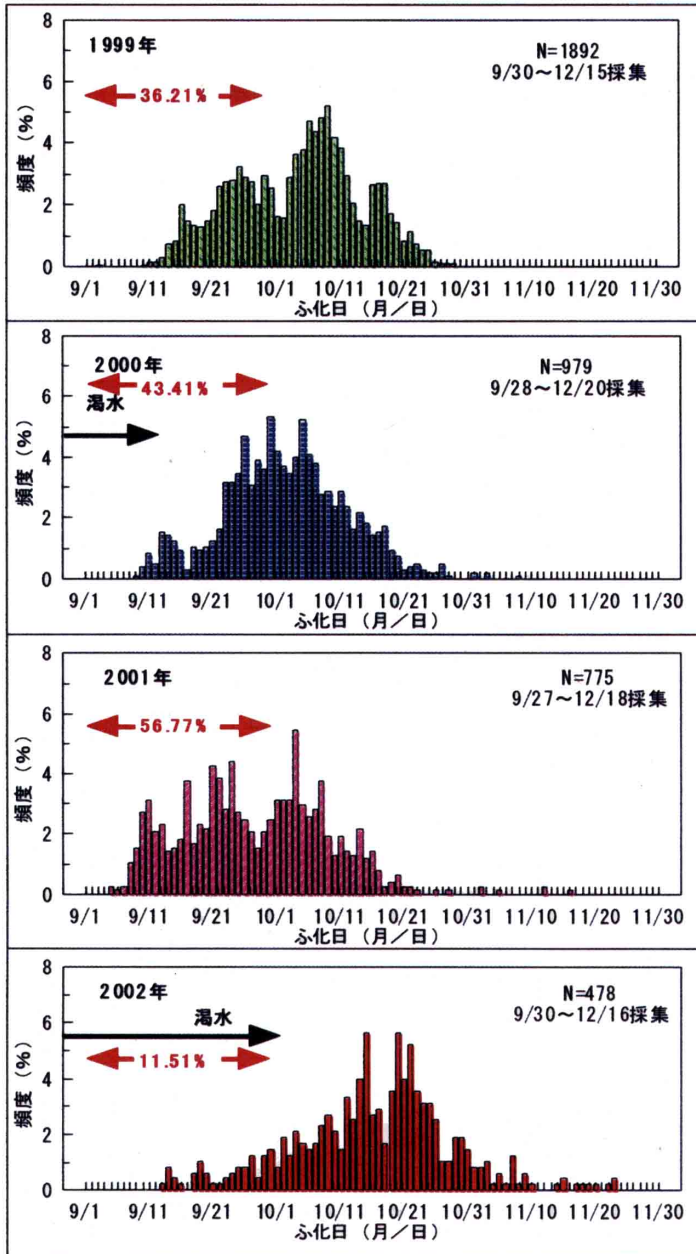


図1. 稚魚ネット採集標本による湖産アユのふ化日組成比較(1999年~2002年)

\*赤数字・矢印は9月生まれの頻度を表す。

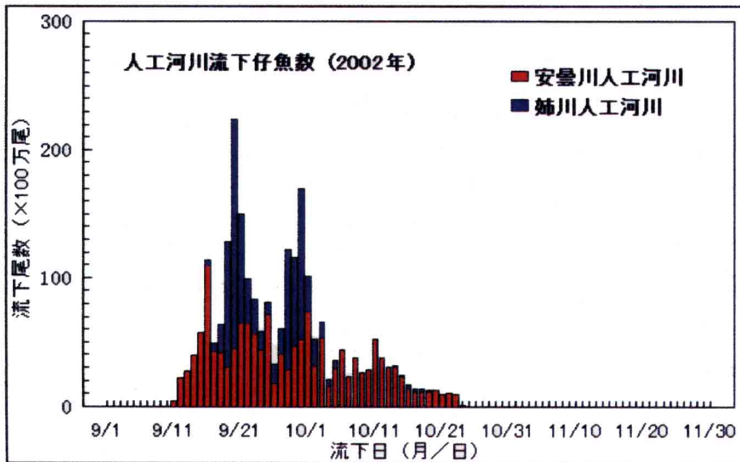


図2. 人工河川流下仔魚数の経日変化(2002年)\*

\* 図2は滋賀県水産振興協会資料に基づき作成した。